

令和2年度 古文書講座のご案内

古文書の読解は、ナマの歴史に触れる第一歩です。郷土に伝わる古文書の読み方を学び、講座の仲間と共に、信濃の歴史について、学習を深めてみませんか？ ※新型コロナウイルス等の状況により日程等が変更になる場合があります。

I 講座内容

講座	内 容
初級	古文書はまったく初めてという方を対象に、まず、第1・2回で、くずし字辞典の使い方、人名、かななど古文書の基礎的な読み方、文書の書き方などを学習します。第3～5回では近世の武家文書や、庶民の日常生活に関わる文書の中から比較的読みやすい文書を読んでいきます。 過去5回以上程度受講された方は中級に挑戦しましょう。
中級	ある程度古文書に親しみ、もう少し本格的に読んでみたいという方を対象に、生活や文化に関連する様々な文書を実際に読みながら、古文書読解の様々なポイントを実践的に学びます。前半は近世文書を、後半にやや難解な中世文書につなげていきます。
上級	ある程度古文書に親しみ、もう少し本格的に読んでみたいという方を対象に、生活や文化に関連する様々な文書を実際に読みながら、古文書読解の様々なポイントを実践的に学びます。前半は近世文書を、後半にやや難解な中世文書につなげていきます。
ティーンズ	大学生以下、中学・高校生の古文書初心者が対象です。歴史に興味があり、文字を読んでみたいという意欲のある学生であれば大歓迎です。史料の読み方をだけでなく、調べ方や文書を手にとった扱い方も学びます。

II 講座日程・募集人員・講師 ※注意 午前中のスタートは10:00からです(除ティーンズ)

講座名	日 時	人 数	講 師		
初級A (休日)	① 6月7日(日)② 7月12日(日)③ 8月2日(日) ④ 9月6日(日)⑤ 10月4日(日)⑥ 10月25日(日) 計6回 午前 10:00～12:00 (第6回のみ13:30～)	40名程度 (最大50名)	村石正行 小野和英 伊藤友久		
初級B (平日)	① 6月11日(木)② 7月16日(木)③ 8月20日(木) ④ 9月10日(木)⑤ 10月8日(木)⑥ 10月25日(日) 計6回 午前 10:00～12:00 (第6回のみ13:30～)				
中級A (休日)	① 6月6日(土)② 7月11日(土)③ 8月1日(土) ④ 9月5日(土)⑤ 10月3日(土)⑥ 10月25日(日) 計6回 午前 10:00～12:00 (第6回のみ13:30～)				
中級B (平日)	① 6月11日(木)② 7月16日(木)③ 8月20日(木) ④ 9月10日(木)⑤ 10月8日(木)⑥ 10月25日(日) 計6回 午後 13:30～15:30				
上級	① 5月23日(土)② 6月27日(土)③ 7月25日(土) ④ 8月22日(土)⑤ 10月17日(土)⑥ 10月25日(日) 計6回 午前 10:00～12:00 (第6回のみ13:30～)				
夏休み ティーンズ講座	① 8月4日(火)② 8月5日(水)③ 8月6日(木) ④ 8月7日(土)⑤ 10月25日(日) 午前 9:30～12:00 (第5回のみ13:30～)			20名程度	村石正行

古文書フォローアップ講座
古文書講座全受講生が参加する教養講座です。
講師 榎本 正治 館長 10月25日(日)

※初級、中級ともA・Bの講座は同一内容。同じクラスのA・B重複受講は不可。
※初級は初心者対象とした内容です。中級は初級講座を5年程度以上履修した方もしくは古文書学習経験者の履修が望ましい。ティーンズは中・高・大学生を対象とする。フォローアップ講座は、古文書学習のまとめを全員でおこなう教養講座である。

IV 申込み受付 2020年4月15日(水)～(定員になり次第締め切り)

V 申込み方法 別紙の申込書に、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号、受講希望講座名をご記入の上、郵送・FAXでお送りいただくか、ご持参ください。またHP上から申し込みもできます。
※受講料は各講座の第1回講座の際に納入いただきますので、申込書に同封しないでください。
1講座1,000円 受理された方には受講票を送りますのでご確認ください。

VI 申込先 県立歴史館文献史料課 〒387-0007 千曲市屋代260-6
FAX 026-274-3996 (例年間違いの電話が多いですので確実にダイヤルしましょう)

令和2年度古文書講座シラバス（全6回）

初級

目標 「簡単な1枚文書の文字を8割以上読めるようになる」

対象 初心者（経験5年以下）の方を対象とします。

初回は辞書の使い方など初歩的なガイダンスです。

1回（村石講師）古文書学習ことはじめ

古文書を初めて学ぶ人のための講座です。最初から「くずし字」はハードルが高いという方。まずは1回目は江戸時代の表現を活字で触れてみましょう。

①まずは活字から／②江戸時代独特の表現 ベスト3／声に出して読む・聞く

②辞書あれこれ 筆順で『くずし字解説辞典 普及版』／
偏や旁から引く字引『くずし字用例辞典』

③自習教材 スマホで「くずし字学習支援アプリ KuLA」

2回（小野講師）歴史的仮名遣いを学ぼう

2回目は古文書でよく使われる「かな（仮名）」について学びたいと思います。辞書の最後のページには、どの様な漢字がかなとして使われるか掲載されています。県歌「信濃の国」を事例に、かなの学習を進めたいと思います。

3回（小野講師）街道の史料を見てみよう

「駄賃定書（だちんさだめがき）」（物品輸送費などに関わる取り決め史料）等を使いながら、街道の利用や輸送について学習したいと思います。

4回（伊藤講師）江戸時代後期の村びとと書肆（しょし） 四

寺澤家文書（更級郡）の書物・刀剣・調度品、掛け軸などの出入りを示す「世帯道具覚」などをテキストに、村びとの世帯道具に対する意識を探ります。

一つ書き文書をひたすら読み進める続々編です。

5回（伊藤講師）明治改元150年 文書から見る長野県誕生 参

明治政府は、幕府領の支配所を接收し支配者の交代を告げたところよりはじまり、明治憲法の発布により帝国の誕生をみるに至ります。この間の出来事として、比較的読み易い文書をテキストに、今とは違う文字の使われ方を知り、読み解いていきます。

古文書フォローアップ講座

対象 初・中・上級・ティーンズ講座共通のまとめの講座です。

1年間学んできたことを思い出しながら受講しましょう。とくに、古文書講座は単に文字を読むことだけが目標ではありません。むしろそこから何を学び読み取ることができるか、が大切です。この講座は、「古文書を読む」ことからさらに「社会を読み解く」ことまでを思索するための「教養講座」です。

テーマ 「1点の武田氏文書を読み解くー歴史館の文書からー」

講師 館長 笹本 正治

日時 令和2年10月25日（日）13:30～15:00

中級 目標「テキストの文字の解読がほぼできる。内容についてある程度自力で把握する」
対象 古文書初級講座を5年以上受講した方・意欲のある方

<p>1回（小野講師） 伊能忠敬の「先触れ」（さきぶれ）を読んでみよう</p> <p>19世紀の初頭、伊能忠敬（いのうただたか）は4回信州に入っています。 当館に忠敬の先触れの写しが残っています。先触れとはどのような内容であったのか読み解きたいと思います。伊能忠敬の日記と比較し、先触れの内容を位置付けます。</p>
<p>2回（畔上講師） 信州の酒の蔵元史料を読んでみよう</p> <p>今年度の当館夏季企画展は「地酒王国 信州」です。現在の長野県の酒の蔵元数は80軒で、新潟県89軒に次いで都道府県別で第2位です。しかし、江戸時代の信州には200を超える蔵元がありました。地産地消されていて、いまより地域密着型でした。 江戸時代の酒造りの様子を示す古文書や、販売用のチラシ（佐久の橘倉（きつくら）酒造「歳徳神酒 菊の泉」）を読んでみましょう。</p>
<p>3回（畔上講師） 『日本山海名産図会』の酒醸（酒造）を読んでみよう</p> <p>『日本山海名産図会』は日本各地の産物の採取（松前昆布、伊勢鮑など）や生産（土佐鯉節、伊万里陶器など）について図解した和本で、寛政11(1799)年に初版されました。今年購入したこの冊子の中にある酒醸、摂津国伊丹酒造の場面を読みます。 酒の銘醸地である伊丹では、どのように酒造りをしていたのでしょうか。</p>
<p>4回（村石講師） 江戸時代 西の丸で煙草を喫（の）んだ女房のはなし</p> <p>近世初頭に日本に伝えられた煙草は九州から爆発的に広がっていきました。幕府は喫煙禁令を全国にたびたび発しましたが、収まることはありませんでした。 今回は、新しく見つかった島津家久の書状原本を読んでみましょう。家臣だけでなく鶴丸城の奥向（おくむき）の女性たちまでが常習していたことがわかります。</p>
<p>5回（村石講師） 江戸時代の手紙作法のはなし</p> <p>相手に応じて宛名の尊称や脇付を変える。女性に書く手紙はどういう文末なのか。封書も敬意の表現の一つで使い分けます。こうした手紙を作成する際のもろもろの作法を書札礼（しょさつれい）といいます。 第5回目の講座では小笠原流の書札礼を読みます。</p>

上級 目標 「難解な日記や書状を読み解読と解釈ができるようになる」
中級以上のレベルをもっている方または意欲のある方

<p>1回（尾崎講師） 上田城下町問屋日記（抄）コピー</p> <p>当日配布分の資料を区分け分担して解読をすすめる。 終了前、次回分の資料を配布し解読担当者を決める。</p>
<p>2回（尾崎講師） 上田城下町問屋日記（抄）</p> <p>前回終了前に配布した資料の担当者による解読発表。 終了前に次回分の資料を配布し解読担当者を決める。</p>
<p>3回（尾崎講師） 上田城下町問屋日記（抄）</p> <p>第2回と同一方式</p>
<p>4回（尾崎講師） 上田城下町問屋日記（抄）</p> <p>第3回と同一方式</p>
<p>5回（尾崎講師） 上田城下町問屋日記（抄）</p> <p>前回終了前配布資料の担当者による解読発表。</p>